

2010 年 5 月 14 日
成田国際空港株式会社

「グリーンウェイブ 2010」企画！

バイオ燃料植物『ジャトロファ』の植樹(試験栽培)のお知らせ

この度、弊社では、バイオ燃料の原料として注目されている植物『ジャトロファ』について、将来、空港における化石燃料の代替としての活用を検討するにあたり、空港周辺において栽培が可能かどうか、下記のとおり試験栽培を実施することとなりましたのでお知らせします。

なお、この取り組みは、生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)の日本開催にあわせ、国が呼びかけている「グリーンウェイブ 2010」に賛同しているものです。

記

1. 日時及び場所:

- ① 2010 年 5 月 19 日(水)15:30～ 騒音対策用地(横芝光町)
- ② 2010 年 5 月 20 日(木)10:00～ B滑走路東側防音堤(制限区域内)

2. 植樹規模:全体で約 500 m² 20 本程度

※ 7 月までに、ジャトロファと同種のアブラギリも含め、合計 60 本の植樹を行う計画です。

◆ ジャトロファについて

(学名 *Jatropha curcas*／和名 ナンヨウアブラギリ)



キャッサバやヒマなどが属するトウダイグサ科の多年生灌木。高さ2～5mで熱帯、亜熱帯地区に分布。栽培適地は、降雨量年平均約 800～3000mm、平均気温 14～27℃の地域。日本においても栽培実験が行われている。

種子は直径 3～4.5cm、有毒で非食用。種子油は石鹸、機械油の原料に使用される。

ジャトロファの特徴

- ①干ばつや害虫に強いため手間がかからず、成長も早いいため安定供給可能
- ②農薬・肥料の投下量が少なく投資が少ない
- ③種子の毒性から食用に適さないので、価格が安価でかつ安定
- ④油分含有量が多く、油の品質も良い

●燃料の採取量

ジャトロファ 1ha 当たりのバイオ燃料採取量は約 2 キロリットル/年

(大豆の約 5 倍、ナタネの約 3 倍)

※ 5 年生以降からは 2 倍以上のバイオ燃料の製造が期待できる。

●CO₂削減効果

ジャトロファ 1ha 当たりの CO₂ 削減効果は約 5 トン/年

※ バイオ燃料をジェット燃料の一部として使用した場合の CO₂ 削減効果

【参考】グリーンウェイブ 2010 について

生物多様性に関する認識を広め、生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)の日本開催、及び国際生物多様性年に対する機運を高めることなどを目的として、環境省、国土交通省及び林野庁が、3 月 1 日から 5 月 31 日までの期間、「グリーンウェイブ 2010」として植樹などを行うことを広く呼び掛けている活動。

※ 『グリーンウェイブ2010』参照リンク先(国土交通省HP)

⇒ <http://www.mlit.go.jp/common/000108585.pdf>

試験栽培場所

①B滑走路東側防音堤

